

平成24年度建設副産物実態調査結果（北海道地方版）について

平成26年3月27日

北海道地方建設副産物

対策連絡協議会

平成24年度に北海道地方の建設工事から排出された建設副産物^{注1)}について、排出及び再資源化等の状況の調査結果をとりまとめましたので公表致します。

調査結果の概要

1. 排出量及び再資源化率等の動向

(1) 建設廃棄物

平成24年度の建設廃棄物の排出量は、356万トンとなり、前回調査（平成20年度）より6.6%減少しています。また、最終処分量は23万トンと前回調査（平成20年度）より9.5%増加しています。

平成24年度の建設廃棄物の再資源化・縮減率^{注2)}は、93.5%と前回調査（平成20年度）より1.0ポイント減少しています。品目別にみると、コンクリート塊は増加していますが、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材^{注3)}、建設汚泥は減少しています。

(2) 建設発生土

平成24年度の建設発生土の排出量は、1258万³mとなり、前回調査（平成20年度）より7.0%増加しています。

平成24年度の利用土砂の建設発生土利用率^{注4)}は86.8%と前回調査（平成20年度）より10.4ポイント増加しています。

2. 「北海道地方建設リサイクル推進計画2008」の目標達成状況

コンクリート塊、建設発生木材（再資源化率）、建設混合廃棄物（排出量削減）については平成24年度目標を達成していますが、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材（再資源化・縮減率）及び建設汚泥（再資源化・縮減率）、建設廃棄物（再資源化・縮減率）、建設発生土（利用土砂の建設発生土利用率）については平成24年度の目標を未達成です。

	平成17年度 (A)	平成20年度 (B)	平成24年度 (C)	平成24年度(C) －平成20年度(B)	建設リサイクル推進計画2008	
					平成24年度 目標値	目標値 達成状況
アスファルト・コンクリート塊の再資源化率 ^{注5)}	96.9%	98.9%	98.4%	-0.5%	99%以上	未達成
コンクリート塊の再資源化率	95.3%	96.8%	98.2%	1.4%	98%以上	達成
建設発生木材の再資源化率	72.4%	94.2%	90.3%	-3.9%	87%	達成
建設発生木材の再資源化・縮減率	86.4%	96.2%	93.8%	-2.4%	95%以上	未達成
建設汚泥の再資源化・縮減率	59.3%	89.3%	60.7%	-22.6%	82%	未達成
建設混合廃棄物の排出量	26.1万トン	12.4万トン	9.9万トン	-2.4万トン	－	－
建設混合廃棄物の排出量削減	－	53%削減	62%削減	－	平成17年度比 30%削減	達成
建設廃棄物の再資源化・縮減率	88.7%	94.5%	93.5%	-1.0%	94%	未達成
利用土砂の建設発生土利用率	81.3%	76.4%	86.8%	10.4%	87%	未達成

注1) 建設副産物：建設工事に伴って副次的に得られる物品であり、建設廃棄物（コンクリート塊、建設発生木材など）及び建設発生土（建設工事の際に搬出される土砂）の総称。

注2) 再資源化・縮減率：建設廃棄物として排出された量に対する再資源化及び縮減された量と工事間利用された量の合計の割合。

注3) 建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

注4) 利用土砂の建設発生土利用率：土砂利用量（搬入土砂利用量＋現場内利用量）のうち土質改良を含む建設発生土利用量の割合。

注5) 再資源化率：建設廃棄物として排出された量に対する再資源化された量と工事間利用された量の合計の割合。

平成 24 年度建設副産物実態調査結果参考資料

1. 排出量の動向 関連資料

- ・建設廃棄物は、前回調査(平成 20 年度)に比して6. 6%減であるが、最終処分量は9. 5%増である。
- ・建設発生土は、前回調査(平成 20 年度)に比して7. 0%増である。

(1) 建設廃棄物

表1. 建設廃棄物排出状況

(単位: 万トン)

調査年度	排出量			
		再資源化量	縮減量	最終処分量
平成20年度(A)	381	355	4	21
平成24年度(B)	356	327	6	23
増減量(B)－(A)	－25	－28	2	2
増減率 ((B)－(A))／(A)	－6.6%	－7.9%	50.0%	9.5%

(2) 建設発生土

表2. 建設発生土の搬出状況

(単位: 万m³)

調査年度	搬出量			
		工事間利用	土質改良プラント	内陸受入地
平成20年度(A)	1,176	422	25	730
平成24年度(B)	1,258	438	13	807
増減量(B)－(A)	82	16	－12	77
増減率 ((B)－(A))／(A)	7.0%	3.8%	－48.0%	10.5%

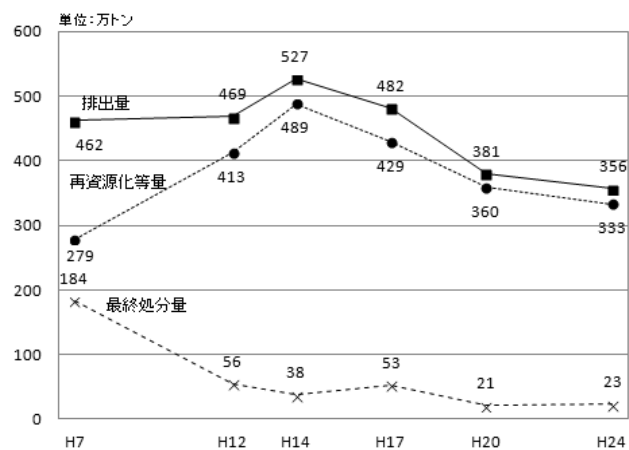


図1. 建設廃棄物の排出量、再資源化・縮減量及び最終処分量の経年変化

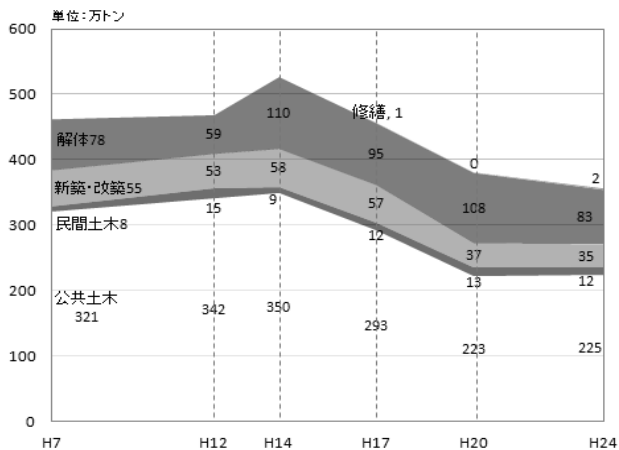


図2. 建設廃棄物の工事区分別排出量の経年変化

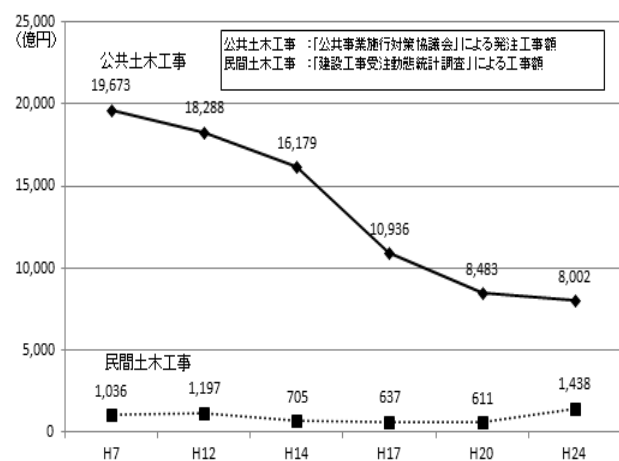


図3. 工事契約額(公共、民間土木工事)の経年変化

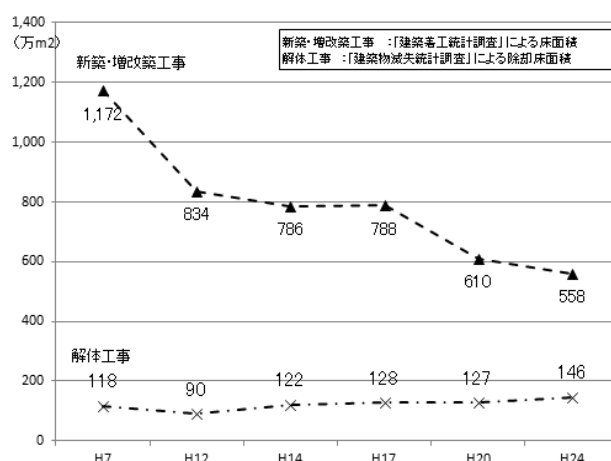


図4. 延床面積(建築工事)の経年変化

2. 再資源化率等の状況 関連資料

(1) 建設廃棄物の再資源化率等

- ・建設廃棄物(再資源化・縮減率)は、平成 7 年度以降上昇傾向にある。
- ・コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊は、平成 12 年度以降高い再資源化率を保っている。
- ・建設発生木材(再資源化・縮減率)は、概ね平成 7 年度以降上昇傾向にある。
- ・建設汚泥(再資源化率、再資源化・縮減率)は、年度によって大きく変動がある。
- ・建設混合廃棄物の排出量は、平成 17 年度に比して 62%減である。

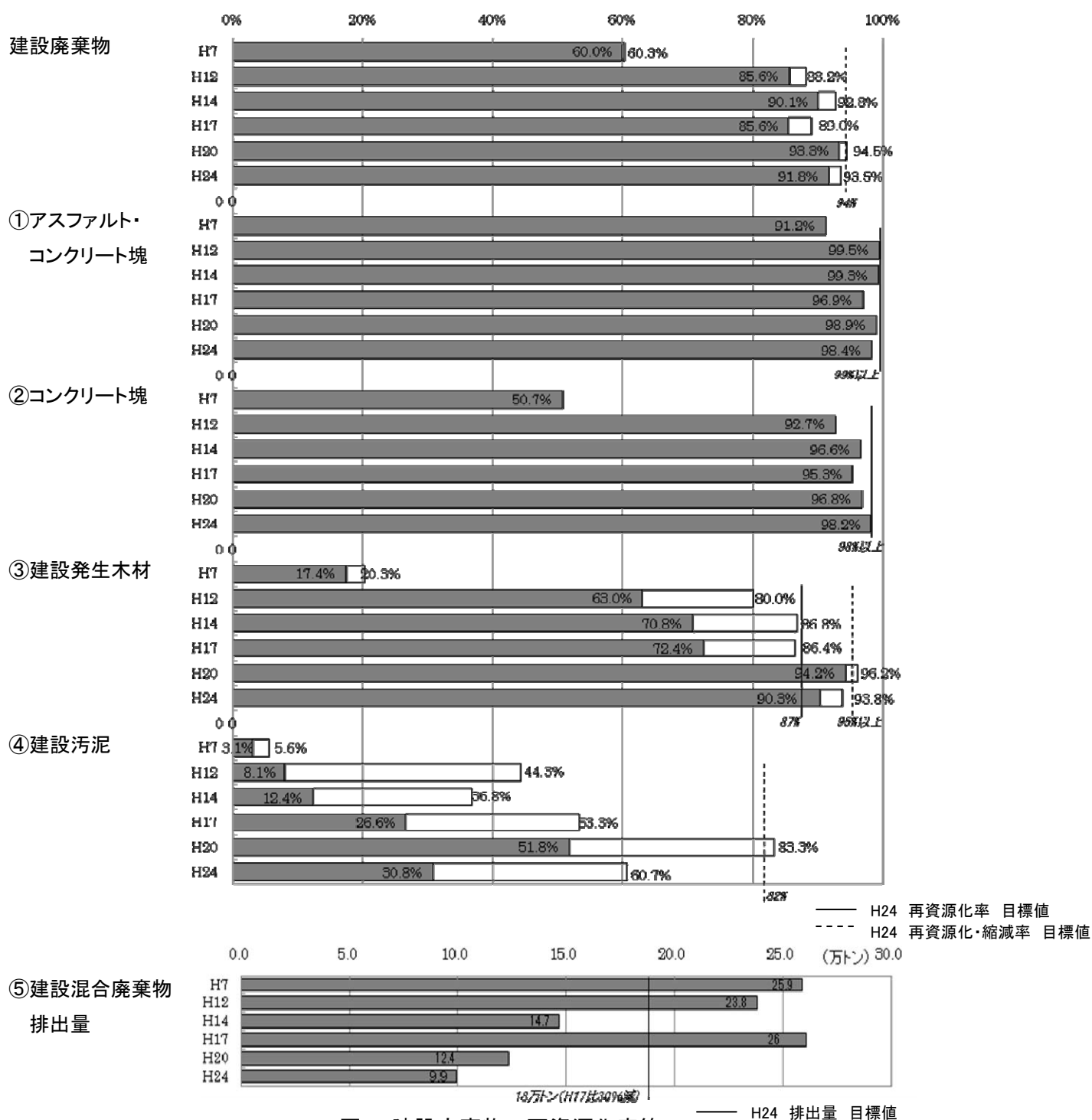


図5. 建設廃棄物の再資源化率等

(2)利用土砂の建設発生土利用率

・利用土砂の建設発生土利用率は、平成 14 年度以降減少傾向にあったが、平成 24 年度は大幅に増加した。

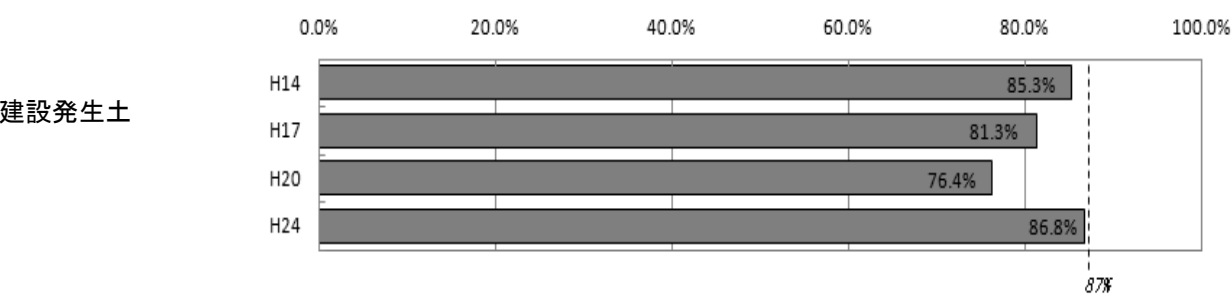


図6. 利用土砂の建設発生土利用率

(3)建設廃棄物の品目別再資源化率等

表3. 品目別再資源化率、再資源化・縮減率

		埋出排出量 (①+②+③)	(単位: トン)			再資源化率	再資源化・削減率
		①再資源化量	②埋置量	③最終処分量			
H7	アスファルト・コンクリート境	196	0	0	17	31.2%	
	コンクリート境	181	92	0	89	50.3%	
	建設汚泥	32	1	1	30	3.1%	5.6%
	建設混合廃棄物	26	1	0	25		
	建設発生木材	24	4	1	19	17.4%	20.8%
	その他(兼プラスチック、紙くず、金属くず)	3	1	0	2		
建設廃棄物全体		462	277	2	184	60.0%	60.3%
H12	アスファルト・コンクリート境	195	194	0	1	99.5%	
	コンクリート境	192	178	0	14	92.7%	
	建設汚泥	15	1	5	9	8.1%	44.3%
	建設混合廃棄物	24	2	1	21		
	建設発生木材	37	23	0	14	63.0%	80.0%
	その他(兼プラスチック、紙くず、金属くず)	6	2	0	4		
建設廃棄物全体		469	401	12	56	85.6%	88.2%
H14	アスファルト・コンクリート境	191	189	0	1	99.3%	
	コンクリート境	252	243	0	9	96.8%	
	建設汚泥	15	2	4	10	12.4%	36.8%
	建設混合廃棄物	15	2	3	10		
	建設発生木材	48	34	8	6	70.8%	86.6%
	その他(兼プラスチック、紙くず、金属くず)	6	4	0	2		
建設廃棄物全体		521	474	14	33	90.1%	92.8%
H17	アスファルト・コンクリート境	146	144	0	2	98.6%	
	コンクリート境	212	202	0	10	95.3%	
	建設汚泥	10	3	3	5	26.6%	53.3%
	建設混合廃棄物	26	2	2	22		
	建設発生木材	44	32	6	6	72.4%	86.4%
	その他(兼プラスチック、紙くず、金属くず)	4	1	0	3		
建設廃棄物全体		457	394	12	52	88.2%	88.7%
H20	アスファルト・コンクリート境	126	124	0	2	98.9%	
	コンクリート境	191	185	0	6	96.8%	
	建設汚泥	10	5	3	2	51.8%	83.3%
	建設混合廃棄物	12	3	0	9		
	建設発生木材	36	34	1	1	94.2%	96.2%
	その他(兼プラスチック、紙くず、金属くず)	6	4	0	2		
建設廃棄物全体		381	355	4	21	93.3%	94.5%
H24	アスファルト・コンクリート境	133	131	0	2	98.4%	
	コンクリート境	164	161	0	3	98.2%	
	建設汚泥	17	5	5	7	30.8%	60.7%
	建設混合廃棄物	10	1	0	8		
	建設発生木材	25	23	1	2	90.3%	93.8%
	その他(兼プラスチック、紙くず、金属くず)	6	0	0	6		
建設廃棄物全体		356	327	6	23	91.8%	93.3%

注)四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。
再資源化率: $\textcircled{1} \div (\textcircled{1} + \textcircled{2} + \textcircled{3})$
再資源化・縮減率: $(\textcircled{1} + \textcircled{2}) \div (\textcircled{1} + \textcircled{2} + \textcircled{3})$

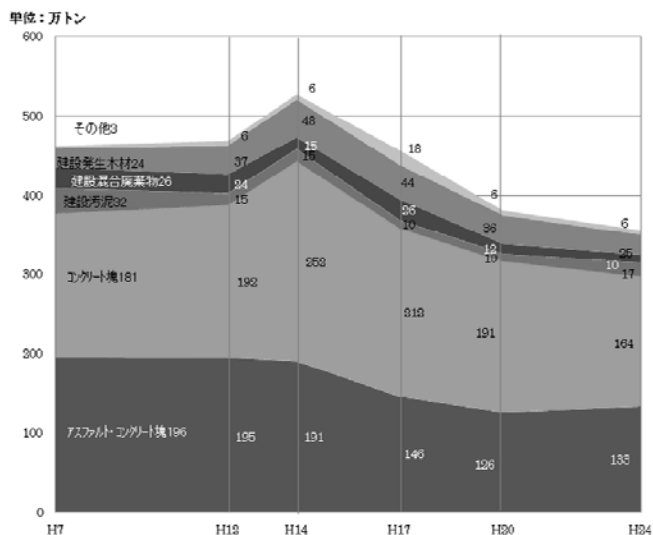


図7. 品目別建設廃棄物の排出量

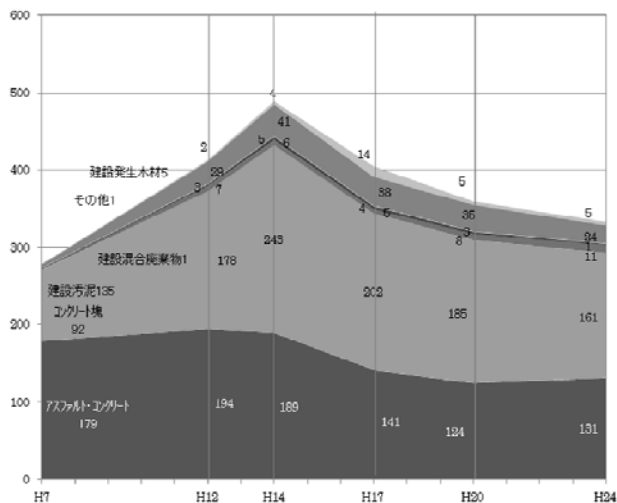


図8. 品目別再資源化・縮減量

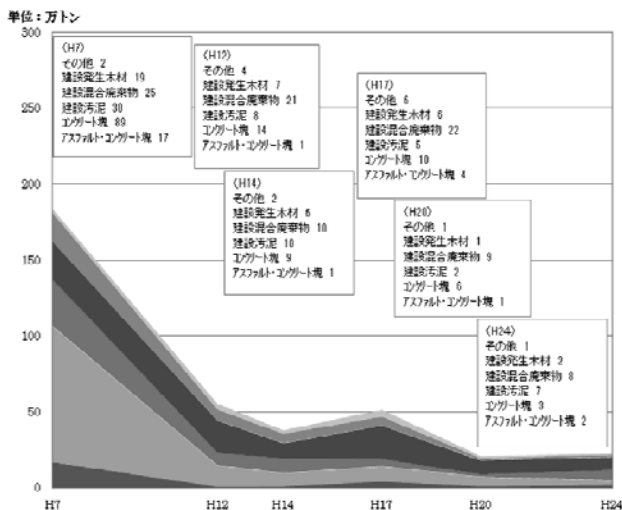


図9. 品目別最終処分量

(4)建設発生土の搬出量及び土砂利用搬入量

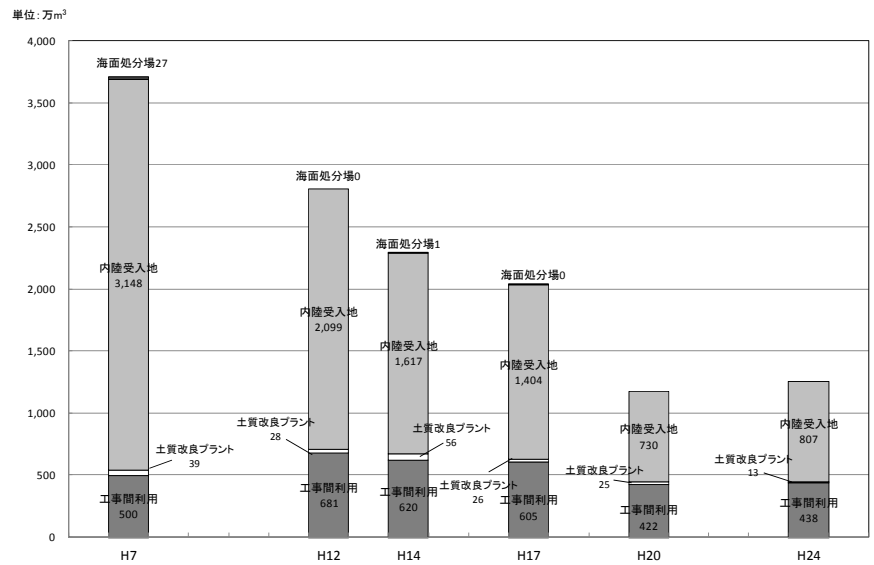


図10. 建設発生土搬出状況

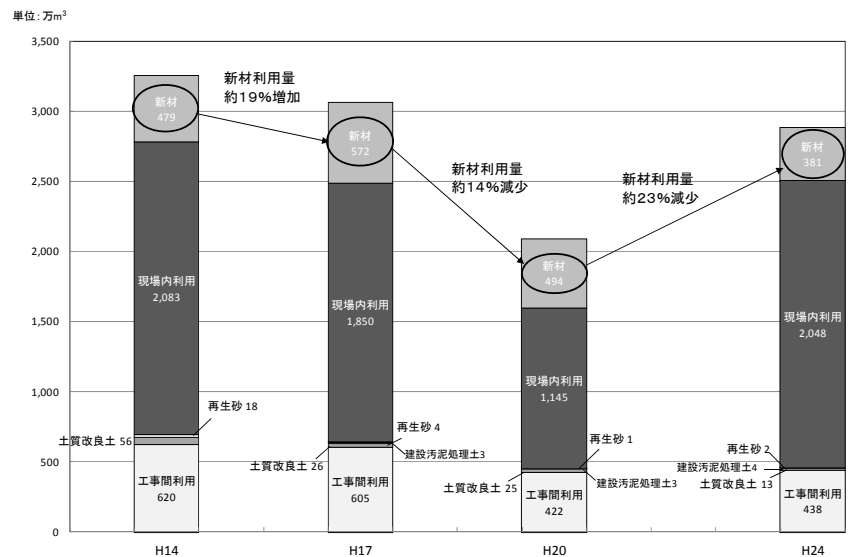


図11. 土砂利用搬入状況

表4. 利用土砂の搬入利用状況

	〔単位: 万m ³ 〕					
	平成7年度	平成12年度	平成14年度	平成17年度	平成20年度	平成24年度
土砂利用量	1,751	1,659	3,256	3,061	2,090	2,884
②工事間利用	500	681	620	605	422	438
③土質改良土	39	28	56	26	25	13
④建設汚泥処理土	0	0	0	4	3	4
⑤再生砂	13	7	18	4	1	2
⑥新材	1,198	697	479	572	494	381
⑦搬入土砂利用量	1,751	1,413	1,173	1,211	945	837
⑧現場内利用		246	2,083	1,850	1,145	2,048
利用土砂の建設発生土利用率 〔②+③+④+⑤+⑦〕/〔⑦+⑧〕	31.6%	58.0%	85.3%	81.3%	76.4%	86.8%

注1: 平成7年度は現場内利用量を調査していない。

注2: 平成12年度の現場内利用量は、100%現場内完結工事を含まない。

注3: 丸囲いの番号は、図14. 建設発生土搬出及び土砂利用搬入状況の番号と整合している。

地方ブロック別の建設副産物再資源化等状況

表5. 建設副産物再資源化等状況

(単位: %)

	北海道	全国
アスファルト・コンクリート塊	98.4 (98.9)	99.5 (98.4)
コンクリート塊	98.2 (96.8)	99.3 (97.3)
建設発生木材 (縮減除く)	90.3 (94.2)	89.2 (80.3)
建設発生木材 (縮減含む)	93.8 (96.2)	94.4 (89.4)
建設汚泥 (縮減含む)	60.7 (83.3)	85.0 (85.1)
建設混合廃棄物 排出量 (万トン)	9.9 (12.4)	279.5 (267.0)
建設廃棄物全体	93.5 (94.5)	96.0 (93.7)
利用土砂の 建設発生土利用率	86.8 (76.4)	88.3 (78.6)

注) 四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

注1 : 1 段目は、平成24年度の値

2 段目の () は、平成20年度の値

注2 : 建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

【各建設副産物の再資源化等状況の算出方法】

- ・アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊 :
再資源化率 = (再使用量 + 再生利用量) / 排出量
- ・建設発生木材 (縮減除く) :
再資源化率 = (再使用量 + 再生利用量 + 熱回収量) / 排出量
- ・建設発生木材 (縮減含む) :
再資源化・縮減率 = (再使用量 + 再生利用量 + 熱回収量 + 縮減量(焼却による減量化量)) / 排出量
- ・建設汚泥 (縮減含む) :
再資源化・縮減率 = (再使用量 + 再生利用量 + 縮減量(脱水等による減量化量)) / 排出量
- ・土砂 (現場内利用含む) :
利用土砂の建設発生土利用率 = (土砂利用量のうち土質改良を含む建設発生土利用量) / 土砂利用量
※土砂利用量とは、搬入土砂利用量 + 現場内利用量である。
また、現場内利用量については、100%現場内完結工事を含めます。